



夢はバラ色

国際会議で同窓会

榎 木 亨*

近ごろ大阪大学の工学部を訪れた人が、「大阪大学は外国人が多いですね」と驚いて話される。国際微生物交流センターの存在も大きいですが、確に各研究室に留学してくる外国人も急増している。私の研究室ですら現在4人（昭和58年2月）4月からさらに増えて5人となる。またここ数年外国人留学生のおらない年はなかった。外国人留学生を引受けるのはなかなか大変なことで、経済的な心配もさることながら、ノイローゼになりはしないか、ドクターあるいはマスターの学位をいかに定められた期間にまとめさせてやらなければならないか、日本人学生との間はうまくいっているだろうか、さらに独身の留学生については日本の女性とのトラブル発生まで気をつかわなければならない。幸今まで引受けた留学生諸君は何のトラブルもなく帰国し、帰国後夫々立派な研究者あるいは技術者として活躍しており、私はその国を訪問した時は必ず空港まで迎えに来てくれているのは嬉しい限りである。また夫婦で留学してきたスペイン人は日本で子供を生んだのだが、私がスペインを訪れた時、その子供は成長してはや小学生になっていたけれども、やはり両親から自分が日本で生まれたことを聞いているのか、私を見るとなつかしそうにして自分は半分ハポネスだと言っていた。

このスペイン留学生とはその後1981年にノールウエーのトロンハイムという小さい町で開かれた国際シンポジウムでも一諸になった。

元私どもの助教授で現在名古屋大学の助教授をしている岩田好一朗君と夕食でも一諸にトロンハイムの通りを歩いている時、後から大声で「Sawaragi sensei」と呼ぶ声がある。この

会議に出席している日本人の誰かと思い振り返っても日本人はいない。そしてにこにことして彼等元スペイン留学生の夫婦が手を振って近づいてくる。聞けば私等のその会議の出席は出席者名簿で知っていたという。彼は帰国しても折角憶えた日本語を忘れまいとして日本語学校に入りなおしてそこを卒業したという。そして会議場でも私等と日本語で discussion をし、また同僚の研究者の通訳までやってくれた。フランス人、スペイン人は気位が高く、英語もあまり話さない人が多いので、日本語で通訳してくれると、いつも話をせずにいるスペインの人達も近親感をもってくれ、いろいろと技術的な質問もしかけてきた（写真—1）。



写真1 トロンハイムの国際会議で元留学生カルロス夫妻と

また先日韓国の釜山大学の教授の手紙によると、韓国の海岸工学の研究者を列举してみると殆んどが榎木研のOBばかりですが、日本と同様に韓国で海岸工学の研究会を毎年開催する予定ですと知らせてくれた。この返事として台湾が同様の国内研究会を六年継続し、昨年国際海岸工学の委員会で4年後の（1986年）開催が決定されたことを伝え、韓国も台湾に負けない様には是非国際会議が開催できる様になるまでポテンシャルを上げて下さいと記した。

* 榎木 亨 (Toru SAWARAGI), 大阪大学, 工学部, 土木工学科, 教授, 工博, 港湾・海岸工学

この様になると国際会議で英会話が下手だからと小さくなる必要は全くなくなってくる。無論会議場での会話は英語が主体となることは変らなくても、コーヒブレイクの時間での discussion, social meeting での会話には日本語で十分通じる様になってくるだろうし、また国際会議において大阪大学の同窓会も開けるようになるかもしれない。またその時の同窓会を通じて時期は違っても同じ大阪大学の吹田学舎で学んだことから違った国の研究者に共通の話題がはずんで新しい研究の発展が期待も出来る。

今私の研究室で学んでいる人はまだ20代或は30代の前半の若い研究者であるが、後10年もたつとその国のわれわれの研究分野を担ってリーダーシップをとってくれる人達であろう。その時にいま私が述べた様な風景は十分想像できるし、またそれが私の夢でもある。その為に、私はできる限り外国人留学生を引き受けもし、また韓国、台湾、タイと出向いて講演、講義も行っているが、最も楽しいのはその国でゼミナールを日本語でやり、完全な私の研究室出身の通訳者がおってその学校の若い研究者から質問が

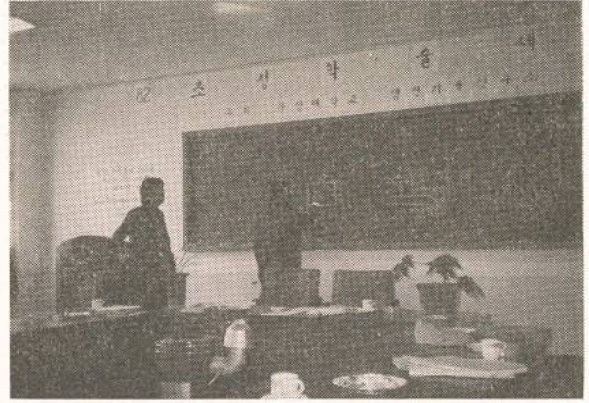


写真2 1983年姉妹校釜山大学でのゼミ風景

続いて、予定の時間を大幅に延長する時である。写真一2は1983の2月に姉妹校協定の第1号として釜山大学に紹かれゼミナールを行った時のもので、このゼミを受けた大学院生からまた次の留学生が出てくるのを期待している。

専門に関するバラ色の夢も必要かもしれない。しかし大学の教官は同時に教育者でもある。今回はその教育者としての、しかも留学生をかかえている教官のバラ色の夢をとりまとめたみたが、英語の下手な教授のバラ色の夢と笑われるかも知れない。

